

- 問1 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？
- 問2 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
- 問3 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
- 問4 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？
- 問5 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
- 問6 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
- 問7 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？
- 問8 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？
- 問9 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 問10 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
- 問11 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
- 問12 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
- 問13 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？
- 問14 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
- 問15 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？
- 問16 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？
- 問17 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
- 問18 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？
- 問19 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣り鐘状の青銅器を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問2	答え 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問3	答え 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問4	答え 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問5	答え ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問6	答え 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問7	答え 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問8	答え 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問9	答え 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問10	答え 近畿地方	青銅器の中でも、銅剣・銅矛の文化圏と、銅鐸の文化圏は微妙に異なり、特に関西地方を中心に多くの出土が見られます。これは、当時のクニの間で文化的な交流や、あるいは対抗意識が存在していたことを示唆しています。
問11	答え 鉄器	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。特に鍬や鋤などの農具が鉄製になったことで、森林の開墾や水田の整備が非常に効率化され、米の収穫量が飛躍的に増加しました。
問12	答え 志賀島	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。この発見により、古事記などの文献に頼るだけでなく、考古学的な資料によって古代の外交関係が証明されることとなりました。
問13	答え 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問14	答え 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問15	答え 後漢	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。これは日本が中国の王朝から外交上の承認を得ていたことを示す重要な証拠です。
問16	答え 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問17	答え 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問18	答え 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問19	答え 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。